

津幡の空から

石川県学校生活協同組合

2019・12月号

石川県学校生活協創立70周年（組合員とともに70年 これまでも これからも）

軍艦島とモン・サン・ミシェル島

12月8日 日曜日午前10時30分から午後1時まで、職員旅行で長崎県にある通称「軍艦島」世界文化遺産の見学ツアーに参加しました。島の大きさは、横480m、縦160m、周囲1.2km、海拔47.7mのコンクリートで固められた島です。石炭採掘の島として使われ、八幡製鉄所に石炭を供給し、最盛期には5000人の住民がいました。しかし、1974年閉山、全員強制退去させられ、現在は誰も住んでいません。廃墟となって幽霊島の有様でした。この様子を見た時、6月に行ったフランスのモン・サン・ミシェル島を思い浮かべました。大きさは軍艦島とほとんど同じ、周囲1kmの島ですが、修道院を中心にしてホテルまであり、にぎやかな様子でした。そして、このすごい差、一方は使い捨てられた島、一方は小さくてもきらりと光っている島。どの時点で、どのような政策で、このような差になってしまったのかと考えさせられました。



11月末経常剰余金決算580万円の赤字。計画よりは619万円の悪化！

石川県学校生活協の2019年度11月末決算は、経常剰余金580万円の赤字です。その状況を詳しく見てみますと、順調な事業剰余は、カタログ事業116%、リフォーム事業の128%、2事業です。厳しい事業は共同購入事業86%、車検事業の89%です。私たち職員が担っている自主供給事業では目標比86%、指定店供給は87%で、自主供給、指定店とも目標より下回った結果となっていますが、早く目標突破という報告をしたいと思えます。

厳しい状況です。職員一同頑張っていますので、これからもよろしくお願いします。

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

「ベートーヴェンの交響曲第九番合唱付き」 北本 豊春

いきなりベートーヴェンを取り上げるのは、ジャブナしで強烈なアップカットを繰り出す感があり少々躊躇します。年末には交響曲第九番『合唱付き』の演奏会が多いと言うことで、今回はベートーヴェンを取り上げます。例年上野の東京文化会館で、『ベートーヴェン交響曲全曲演奏会』が開催されています。これまで一年間、この会に参加してきました。二月三日の午後一時に開演され終演は夜中の一二時です。休憩は入れませんが、一〇時間程大曲を演奏し続けた後で、第九番『合唱付き』と言う重厚な名曲に挑むわけです。指揮者・楽団員共に汗まみれと言う様相ですが、入魂の第九演奏は例年心を奪われる素晴らしいものです。指揮者は『炎のコバケン』の異名をとる熱血漢マエストロ小林研一郎。オーケストラはN響主体のオールスター楽団です。第九には、青年期にボン大学で学んだ啓蒙思想の思潮が色濃く反映されています。フランス革命の時期に、ベートーヴェンは一九才。多感な時節でした。崇敬する革命派の詩人シラーの『歓喜の歌』を第九に取り入れました。大合唱では「引き裂かれたものを再び結び合わせ汝の翼のもとで全ての人々が兄弟となる」と歌います。王侯貴族と平民との間に広がる極限的な乖離・格差を打ち消し、身分制度と資産格差による非情な差別を超越したところにこそ兄弟愛があり、人々は固く結ばれると言う認識を込めているわけです。青年期に学んだ啓蒙思潮が創作の原動力となっています。

編集後記

ベートーヴェン交響曲全曲演奏会
12月31日火曜日 東京文化会館大ホール 午後1時開演、午後12時ごろ終演の上記の演奏会を聞きに行くことにしました。一番・二番・三番「英雄」・四番・五番「運命」・六番「田園」・七番・八番・九番「合唱」の全曲を連続して演奏する会です。この演奏会は今回で12回目だそうです。私は初めて参加します。そして、折角だからと良い席を求めました。今からワクワクしているのですが、疲れて途中で眠くならないか心配もしています。この演奏会の参加の大きな原因は、左の著書「クラシック音楽の世界」を読んだからです。俄かクラシックファンとして頑張っただけだと思っています。結果は、後の号に載せます。(道祐)